科目名 Subject	グローバルコミュニケーション（日本語）Ⅱ Global Communication (Japanese) Ⅱ			教員名	日本語チーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1単位	
必修／選択	選択	授業形態	演習	時間	30時間	
実践的教育	×					

主な学習効果	知識・技能	主体的行動力	課題解決能力	多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力	日本の伝統と文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力	美しく生きる力を実践できる能力
	○	○		○	◎	

科目の概要	本授業では留学生が短大の授業を受けることができるようになるために、必要な言語知識を習得していくとともに、自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々の社会的・文化的背景の理解が図れるよう、主に日本、そして海外の伝統と文化を幅広く学んでいく。それにより、社会や自分が置かれている状況を把握し、さらにその周辺の様相についても捉えていく。そのために積極的な発言を求めたい。留学生がこれまで学んできた日本語は、日本の伝統と文化であると言っても過言ではなく、日本語の歴史や社会の中での日本語のふるまいを観察していくことにより、伝統や文化である言葉が持つ美を発見していく。
授業方法	対面により進めていく（コロナの状勢によってはオンラインの可能性がある）。
授業の目標	国や民族により言葉や文化は異なるが、その差異は異文化交流の際なぜ偏見や差別の対象になる場合があるのか、そう考えたことがあれば言葉や文化はそれぞれが同じ価値を持ち、差異は世界を構成する一部分であることの理解につながっていくはずである。それを様々な角度から言葉を観察することにより達成し社会と言葉が相互に連関を保っていることを説明できる。
時間外学習（予習・復習）	全ての回において予習は30分、復習は30分必要とする。授業外学習時間は、計900分以上必要であるため、不足分は休暇などを利用すること。必要資料については前回授業までに配布する。また次回までに前回授業内容についての質問も考えておくこと。
教科書・教材	教科書：配布プリント 教材：なし 使用設備・備品：なし 参考文献：適宜授業内で紹介します。
評価方法	成績評価方法:授業内課題(30%)、最終レポート(70%) **なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。**
学生へのフィードバックの方法	授業内課題へのフィードバックは次回時間に行う。
履修上の注意	積極的な発言を求めたい。また次回までに前回授業内容についての質問を考えておくことも望ましい。
本科目履修と関連する資格	資格名：なし

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第１回	オリエンテーション 1. コロナ禍の言葉について学ぶ	コロナ禍でどのような言葉が使われてきたか。それを観察することにより私たちの言葉の捉え方を理解し述べることができる。	予習:コロナウイルス流行の中メディアにより発信された言葉を書く。復習:その言葉を私たちはどう捉えていったのかを省みる。
第２回	2. コミュニケーションの役割について学ぶ	コミュニケーションの役割について理解しそれを述べることができる。	予習:人やほか動物のコミュニケーション手段を書く。復習:よりよいコミュニケーションとは何か考えておく。
第３回	3. コミュニケーションにおける言葉の役割について学ぶ	コミュニケーションにおける言葉の役割について理解できたことを述べることができる。	予習:非言語と言語どちらのコミュニケーションの方が大切か考えておく。復習:よりよいコミュニケーションを図るとは何かを考えておく。
第４回	4. 言葉と文化について学ぶ	日本や海外の文化を観察することにより普段無意識にある自文化を発見し、日本文化を理解しそれを述べることができる。	予習:文化とは何か考えておくこと。 復習:「言葉と文化」（抜粋）を読み考えたことを書く。
第５回	5. 日本文化と自文化の違いについて学ぶ	普段無意識にある自文化にはどのようなものがあるか発見し、また日本文化を理解しそれを述べることができる。	予習:「空気の研究」（抜粋）を読み考えたことを書く。復習:常識と解釈される自文化・日本文化にはどのようなものがあるか意識化する。
第６回	6. 言葉と偏見について学ぶ	偏見を持たないということは可能か。偏見から自由になることもまた可能かを考えることができそれを述べることができる。	予習:自分はどんなステレオタイプを持っているのか意識化してみる。 復習:言葉を持ったまま差別を消す方法があるのかを考える。
第７回	7. 社会の中の日本語について学ぶ	性差、方言、若者言葉等は何を意味するのか理解できそれを述べることができる。	予習:言葉の性差・世代差、流行語の具体例を挙げておく。 復習:上記の言葉は何を意味するのか整理する。
第８回	8. 文化としての行動である言葉について学ぶ	あいさつや雑談という行動は何を意味するのかがわかりそれを述べることができる。	予習:「新しい日本語の予習法」（抜粋）を読み、ファティックの役割を書く。復習:ファティックのない人間関係は成立するか考える。
第９回	9. 言葉は先天性か後天性かについて学んでいく	言葉は先天性のものか、後天性のものか考えられそれを述べることができる。	予習:言葉は先天性か、後天性かを考えてみる。その理由も。復習:生き物に共通するコミュニケーションが意味することは何かを整理する。
第１０回	10. 言葉と言葉以前のコミュニケーションについて学ぶ	言葉以前はどのようにコミュニケーションを図っていたのか事例を元に考えられ、述べることができる。	予習:「言葉が生まれるとき」を読む。第9回で具体的に説明。復習:課題内容について就職後それはどのように活かせそうか考えてみる。
第１１回	11. 識字率と文化の関係性について学ぶ	識字率は文化とどのように関わっているのか資料を元に考えることができそれを述べることができる。	予習:ユニセフ統計データから読み取れることを書き出しておく。復習:識字率と文化はどのように結びついているのかを整理する。
第１２回	12. 識字率と教育について学ぶ	調査したことを報告・発表できる。	予習:ユニセフ統計データを元に課題を書く。詳細は11回目に案内。復習:クラスメートの意見を踏まえ、自分の課題内容を省みる。
第１３回	13. 言葉と行動の結びつきについて学ぶ	言葉と身体、言葉と感覚（五感）はいかに結びついているか考えられそれを述べることができる。	予習:潟という文字の7画目を手を動かさずにたどれるか試す。復習:自分を取巻く環境内での刺激は行動にいかに影響するか意識化する。
第１４回	14. 最終レポートのための「主題文」の執筆、推敲を実践していく。	提出前発表をし意見を出し合う→推敲できる。	予習:最終レポートの主題文を書く。復習:主題文に対しもらったクラスメートからの意見を踏まえ、レポートを書き進める。
第１５回	15. 最終レポートの執筆、推敲を実践していく。	提出前発表をし意見を出し合う→推敲できる。	予習：:主題文に対しもらったクラスメートからの意見を踏まえ、レポートを書き進める。復習：レポートを完成させる。